

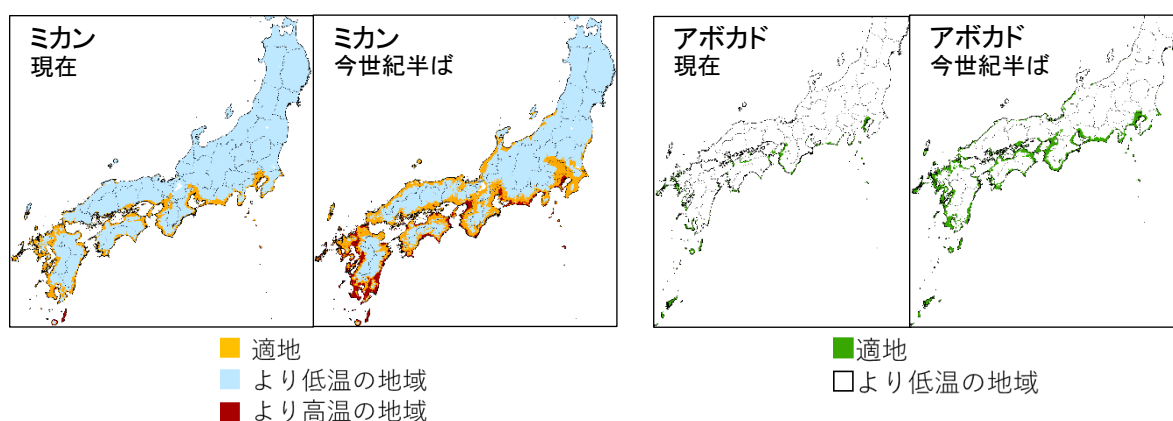
温暖化に対応したミカンとアボカドの適地予測マップ

温暖化の影響が大きく、適地移動が懸念されるウンシュウミカン（以下、ミカン）について、長期的な生産計画策定のための詳細な適地予測マップを開発しました。一方、温暖化により適地拡大が期待される亜熱帯果樹のうち、アボカドの適地予測を初めて行いました。

☆ 技術の概要

果樹は気候への適応性が低いため、温暖化の進行に伴い、現在の産地が栽培に適さなくなる可能性があります。実際にミカン産地では、日焼けや浮皮など高温障害が多発しています。一方、被害対策だけでなく、気候変動がもたらす機会の活用も重要です。現在、アボカド等の亜熱帯果樹の栽培適地は南西諸島や伊豆・小笠原諸島など島しょ部が中心ですが、今後、本州などに大きく広がる可能性があります。

そこでミカンとアボカドについて、個々の産地レベルで将来の適地分布を確認できる詳細なマップを開発しました。また、結果を分析し、(1) ミカンの適地は徐々に北上するが、適地よりも高温となる地域の多くはアボカドの適地となるため、ミカンから中晩生カンキツへの転換だけでなく、アボカドへの転換も適応策のひとつとなり得ること、(2) アボカドについては、今世紀半ばには、本州等の沿岸部の一部が栽培適地となり、適地面積は現在の 2.5 倍以上に拡大することが示されました。



ミカンおよびアボカドの適地移動予測（今世紀半ばは中庸気候シナリオ SSP5-RCP8.5 の場合）

☆ 活用面での留意点

1. 詳細なミカンおよびアボカドの適地移動予測マップは農研機構のサイトからダウンロードできます。https://www.naro.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/167282.html
2. 詳細は(<https://www.naro.affrc.go.jp/inquiry/index.html>)にお問い合わせください。

（農研機構 果樹茶業研究部門 研究推進部研究推進室 杉浦俊彦）